

大曲中 教えるの基本

【基本的学習習慣の確立】

- ①ベル着の徹底 ・教師もベルの前に教室に入り、生徒を観察します。
- ②ユニバーサルデザインを取り入れた集中できる黒板周辺の掲示
 - ・ホワイトボードカーテンを閉めます。
 - ・モニター下の諸連絡（委員会・学年の連絡、ワーク未提出）を隠します。
- ③授業のあいさつ ・全員がきちんと発声するように指導します。
- ④発表の仕方 ・返事をして起立し、椅子をしまします。
- ⑤机上の整理 ・授業で使う物のみ机の上に置きます。（筆入れをしまう）
- ⑥服装 ・実技を伴う教科以外は、制服で授業を受けます。
- ⑦授業の終わり ・次の授業の準備に支障のないようベルで終わります。

～ 1 時間 の 授 業 の 流 れ ～

学習課題 → 自力解決 → 学び合い → まとめ → ふり返り

1 学習課題・めあて

学習のねらい・学習課題（めあて）・学習活動・評価の整合性を図ります

- (1) **ねらい** 指導者の指導目標。学習指導要領の各教科等の目標及び内容に基づき、生徒の実態に応じて設定した、各時間において身に付けさせたい力を具体的にしたもの。
- (2) **学習課題** ねらいを達成するために、生徒に解決させるもの。
→ (例) 「～はどうなるだろうか。」
- めあて** ねらいを達成するために、生徒が本時で何をすればよいのか（何ができるようになればよいのか）を示したもの
→ (例) 「～を考えよう。」 「～を見つけよう。」
- ①学習のねらいをもとに「学習のまとめ」を考えます。そして、「学習のまとめ」に到達できるような「学習の課題（めあて）」を提示します。
- ②学習課題・めあては、生徒の発言を生かしながら一緒につくります。
（「あれ」「おかしいな」「困ったな」「きのうとの違いは」）

2 自力解決

生徒一人一人が自分の考えをもって話し合いに参加できるようにします

- (1) ノートやタブレットにかくことを基本とします。
- (2) 時間を設定、提示して短時間でかかせます。
- (3) 文字、図、式、表を用いるなど、様々な方法で考えるように伝えます。
- (4) かいたことは、ノートに頼らないで説明できるように伝えます。

3 学び合い

確かな発問が学び合いの質を高めます → 発問の精選、意見のコーディネート

- (1) 大曲中学校区での学習を通して目指す姿（関わる、訊く、伝える、振り返る）の共通実践をもとに話し合います。
- (2) ねらいによって学び合いの形態を変えますが、小集団→全体を基本とします。
- (3) ねらいにせまり、生徒の考えが広がる発問を計画的・意図的に準備します。
- (4) 生徒同士の発言がつながるようにコーディネートをします。

【コーディネート（授業展開）の例】

①意図的指名型

一人一人の考えを把握したら、それをどのように組み合わせて発表させるかを考えて指名していく。

*例「BさんはAさんと同じ答えになったようだけどどう考えたのかな」

②教師司令塔型

意図的指名の展開の中で、全体に広げたいときや、練り上げて深めたいときに行う。

*例「Bさんは、Aさんの考えをどう思いましたか」

「Cさんは、二人の考えをどう思いますか」

③ペア対話型

意図的指名の展開の中で、全員に話させたい大切な部分で行う。隣同士で互いに説明したり相談したりする。内容によっては、ペアでなく小集団で行うこともできる。

*例「今Aさんはどんなことを言ったのかお互い説明してみましょう」

「今のAさんの意見についてどう思うかお互いに自分の考えを言ってみましょう」

④生徒主体練り上げ型

教師の問い掛けに、生徒が自主的に考えを出し合う。教師はねらいに沿ったやり取りになるように調整役になる。①～③がまでが十分に機能するようになれば、④の状態が期待できる。

*例「みんな、Aさんの考えをどう思いますか」

【思考の活性化を促す発問】

本時のねらいやまとめを意識して設定し、全員が納得する最適解を導くコーディネートをします。

根拠を問う	「なぜそうなるのですか？」
焦点化する	「〇〇との違いは何ですか？」
転換を図る	「図やグラフ、表をかいて説明できますか？」
選択させる	「どの考えがいいですか？」
再生させる	「今の考えをもう一度言えますか？」
比較させる	「どちらが〇〇と思いますか？」
補助させる	「ヒントが言えますか？」
一般化を図る	「どんなときでもそう言えますか？」
共有させる	「何が言いたいかわかりますか？」
集約させる	「全部違う考え方ですか？」「共通点は何ですか？」

4 まとめ

「まとめ」は「学習課題（めあて）」と整合させます

- (1) 本時の学習でわかったことを、短く簡潔に書くように伝えます。
- (2) 板書から授業を振り返りキーワード等を示して、自分の言葉でまとめることを目指します。

5 振り返り

自己の変容を自覚できるように振り返りの視点を示します

- (1) 授業や単元の終わりには学習を振り返る時間を設定します。
- (2) 振り返りは、ノートやマイヒストリー（自己評価カード）に書くことを基本とします。
- (3) 授業後の変容や働かせた見方・考え方に沿って振り返りをさせます。
- (4) 振り返りの記述を、主体的に学習に取り組む態度の評価資料とします。

6 板書とノート指導について

生徒の思考の足跡がわかる板書（ノート）にします

- (1) 全校で統一した、授業プレートを使います。
- (2) 事前におおよその板書計画を立てます。
- (3) 各教科の板書の仕方を決めて構造化し、それに合わせてノートの取り方を指導します。
- (4) 文字の大きさや色チョークの使い方を統一します。
 - ①学習課題・めあてを青チョークで囲む。
 - ②まとめ・学習のポイントを赤チョークで囲む。
 - ③キーワード等の重要ポイントは黄チョークで書く。青チョークは見えにくいので文字には使わない。

7 タブレットの使用について

使用の意図を明確にし、ねらいにせまる手立てとします

- (1) 机の中に置き、使用するときのみ机の上に置きます。
- (2) 何分間、何をするか指示を明確にします。
- (3) 正しい姿勢やときどき目を休めるなど、生徒の健康に留意します。